

い ぼ

いじらず受診が無難

荒木 医院

清水友子 先生

誰でも聞いたことのある「いぼ」ですが、医学的には尋常性疣贅といいます。手足によくでき、表面がブツブツしていて、ちょうどカリフラワーのように見えます。これはヒト乳頭種ウイルスが皮膚に侵入して増殖することによって起こります（皮膚の老化が原因の老人性のいぼとは別）。これらのいぼのウイルスの仲間は100種類ほどあり、青年性扁平疣贅とって、おもに若い人の顔や手の甲にできる小さく平らに盛り上がったいぼや、尖型コンジローマとって、性感染症の一種で陰部粘膜にできるいぼなどがあります。

治療は局所療法が一般的で、液体窒素（マイナス196度）を使って7日から10日置きに凍結療法を行います。普通の皮膚にできた場合は治りやすいのですが、かかるとのような皮膚の硬い場所にできたいぼは治りにくく、日数がかかります。凍結療法時には少し痛みを伴いますが、間隔を開け過ぎると効果が落ちるので、きちんと通院することが重要です。また、いぼをグルタールアルデヒドを塗布して腐食させたり、レーザーなどで焼いたりすることもあります。

全身療法としては、免疫力を強める目的でヨクイニン（ハト麦）やグリチロン、セファランチンなどの内服を併用することもあります。暗示療法（いぼは絶対に治るのだと思いこむ）やいぼとり地蔵による効果も、この療法にはいるのかもしれませんが。

いぼは、水いぼ（子どもに多い、真ん中がくぼんでツヤのあるいぼ）のウイルスとは異なり、人から人への伝染はあまり心配ないのですが、皮膚に目に見えないような小さな傷があると感染しやすくなるので、日ごろのスキンケアが非常に大切です。また、いぼを取ろうといじったり、足の裏にできたいぼを「うおのめ」や「たこ」と間違えて削ったりすると悪化することがあり、過度の自己流療法は厄介です。

いぼかなと思ったら、早めに医療機関で受診した方が無難なようです。